

# ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 21



～一瞬の 時間を重ね 人生へ～

<http://hb8.seikyou.ne.jp/home/pianomed/>

スケート選手である筆者は、年間を通じて大会に参戦中。冬の国体にアイススケートでデビューしたのが、1999年、長野のMウェーブだった。その前年、ちょうど長野冬季オリンピックが開催された会場だ。

インラインスケートの大会は、しばしば長野県で行われている。本年6月、木島平の大会で、私は200mを20・859秒で滑り、シニア部門で第1位となつた。同8月、佐久平の美笛リンク（図1）では、300mを30・754秒。いずれも短距離の自己新記録を達成できた。順位は気にせず、工夫してきた練習の成果が出たのが嬉しい。

それでも、手動のストップウォッチで10分の1秒ではなく、電気時計で1000分の1秒まで測定できるのは、ありがたい。レースの勝敗はいつも僅差なので、このレベルまで必要だ。また、自分の達成度を確認していくためにも、絶対的な指標があるのできちんと判断できる。

同社の協力で、古典から

## 精密機器・オルゴール

このたび、精密な時間や機器にかかる施設に、訪れる機会があつたので、紹介させていただきたい。



図1

私がアイススケートを志したきっかけは、長野五輪の金メダリスト・清水宏保選手だった。当時、彼の所属が「三協精機」であり、現在でもスピードスケート部がある。実は、同社はオルゴールの生産で世界一になつたこともあり、オルゴール作りで諏訪地方が世界的シェアを誇っているのをご存知だろうか。



図2

館内には、古典、現代、からくりなどの様々なオルゴールが展示。ボロンボロ音とやわらかい音が、私たちの心を優しく包み込む。深いがある音色が出るためには、いくつかの条件が必要だ。まず、心臓部のアクションが精確に動き、木箱がうまく共鳴しなければならない。

同館で魅力的な企画が、「オルゴールの手作り体験コーナー」。世界に一つしかない自分だけのオルゴールを製作できる。早速、試してみると。まず、300種類から好きな曲を選んで、次に、オルゴールを内臓させる木箱を決める。木箱に好みの色を塗ったり、ビーズや石を貼り付けて、宝石箱を作るというワケ。工房での製作では、大きな模型で説明を聞き、懇切丁寧に手助けしてくれた（図3）。ドラムにくし歯を固定する際に、微妙な距離の違いで、音色が全く異なることがよくわかつた。

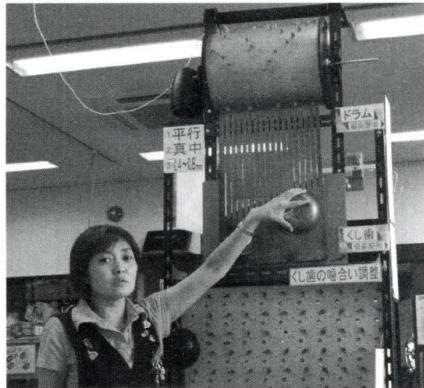


図3

一ヶ月記念館を訪れたが、今回、諏訪という聖地での経験は意義深い。自分で選んで作ることで、とても愛着があるときの曲が一緒に心の底に記憶されているハズ。オルゴールで鍵（キー）となる曲を聴くと、当時の光景や情感が生き生きと甦つてくることだろう。

## 時を刻む

諏訪の産業といえば、精密機械の時計が広く知られる。諏訪大社から徒歩1分、奏鳴館から2分のところに、「諏訪湖・時の記念館・儀象堂」が位置する。

館内では、あらゆる種類

の時計が、私を歓迎してくれた。中でも、私が興味深く思つたのが「水時計」。昭和56年、奈良県明日香村の飛鳥の集落で水時計の基壇が発掘された。再現したのが図4で、水時計は図5のように進化したと考えられる。誤差を小さくするために、数個の水槽を使うようになったのだ。

日本書紀によると、齊明天皇（後の天智天皇）が初めて、漏刻（漏刻、ろうこく）を造ったという。水が少しづつ漏れ、時刻を知ら

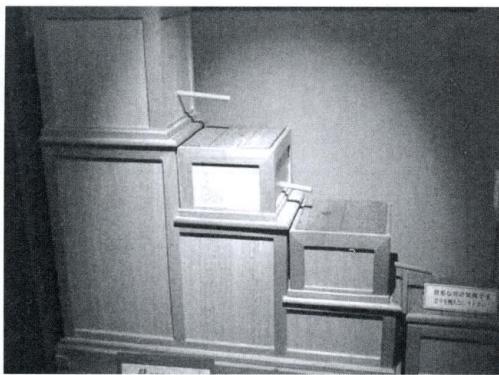


図4

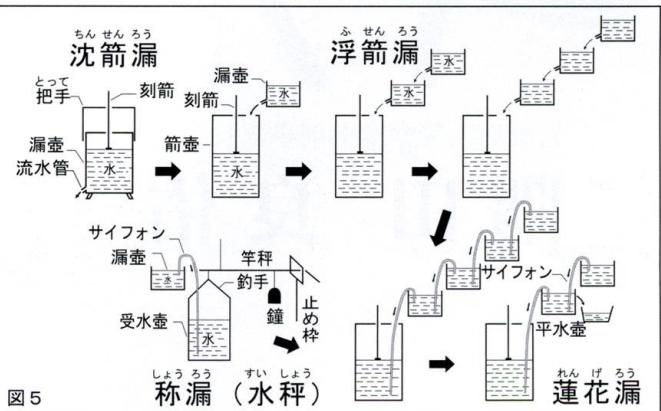


図5



図6

千差万別なタイプの時計やパネルを見渡していると、同館の中庭に、3階建てほどの建物を見つけた。驚くにつたい何だろう？ 驚くことに、この建物全部が一つの時計で、「儀象堂」だつた（図6）。

これは900年の時を越え、世界で初めて「幻の天文時計・水運儀象台」を復元したものである。内部に入ると、いろいろな歯車や

仕掛け、安全装置がみられる（図7）。遠い昔、中国で、これほどの技術を駆使して、周囲に時刻を知らせた」とある。悠久の昔、打楽器の音の伝播により、人々が時を感じ暮らしのリズムを調節していたとは、なかなか興味深いものだ。

## 幻の天文時計

筆者が子供のとき、ピアノには、ノの演奏で、指が動く速さはどれぐらいだろう、と疑問に思つた。ピアノには、低い音から高い音まで88個の鍵盤がある。ヨーロッパで、すべての鍵盤を半音階で弾いてみた。最初は約15秒だったが、その後約6秒まで縮まったのを記憶している。割り算すると1秒あたり約14鍵盤となり、技術の進歩を楽しんでいたのを思い出す。

スケートについては、35歳から開始。以前には、レスで相対的に他の選手に勝ちたい気持ちもあつた。しかし、近年は、コツコツと練習を重ね、上達の具合をタイムという絶対的指標で確認したい、と思うようになつてきている。

時計をみながら、時間に

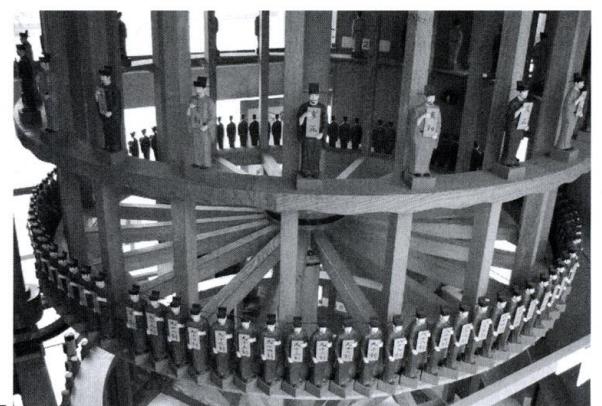


図7

（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、

ピアニスト）